

平成15年（行ケ）第51号 審決取消請求事件
口頭弁論終結日 平成15年9月24日

判 決

原 告
同訴訟代理人弁護士
同訴訟代理人弁理士
被 告
同訴訟代理人弁護士
同訴訟代理人弁理士
同
同
同

A 吉宮勝 武嶋 賢 次学仁
宮 沼 宏 仁
勝 沼 宏 一
開 発 コ ン ク リ ト 株 式 有 限 公 司
杉 本 木 水 島 山
牛 清 内 横
判 決

主 文

1 特許庁が無効2002-35192号事件について平成15年1月7日にした審決のうち、特許第2772505号の請求項2, 3（いずれも同年8月25日付け訂正2003-39120号事件の審決確定前のもの）に係る部分を取消す。

2 訴訟費用は原告の負担とする。

事実及び理由

1 原告は、主文第1項と同旨の判決を求め、主文第1項記載の審決（以下「本件審決」という。）の対象となった、後記訂正前の特許（原告を特許権者とする特許第2772505号。以下「本件特許」という。）の請求項1ないし3（以下「旧請求項1ないし3」という。）につき、特許請求の範囲の減縮を目的とする訂正を認容する審決（訂正2003-39120号事件）が確定したから、本件審決のうち本件特許の旧請求項2, 3に係る部分は取消されるべきである旨述べた。

2 本件特許の旧請求項1ないし3につき、特許請求の範囲の減縮を目的とする訂正（この訂正により、旧請求項1は削除され、旧請求項1を引用する形式の旧請求項2は新請求項1に項番が繰り上げられて、独立形式に変更され、旧請求項3は新請求項2に項番が繰り上げられた。）を認容する前記訂正審決が確定したことは当事者間に争いがない。そうすると、本件審決のうち旧請求項2, 3に係る部分は、結果として、判断の対象となるべき発明の要旨の認定を誤ったものとなり、この誤りが本件審決の旧請求項2, 3に係る部分の結論に影響を及ぼすことは明らかである。

したがって、本件審決のうち旧請求項2, 3に係る部分は取消しを免れない。

3 以上によれば、原告の本件請求は理由があるから、これを認容することとし、また、訴訟費用については、本訴の経過にかんがみ、これを原告に負担させるのを相当と認め、主文のとおり判決する。

東京高等裁判所第3民事部

裁判長裁判官 北 山 元 章

裁判官 青 柳 馨

裁判官 沖 中 康 人